


# プラネタリウム誕生100年



2023年11月1日(水)～12月8日(金)

## ★展示資料リスト★

### 【図書】



資料名	東京大学OPAC
1. 鶴田匡夫著『光の鉛筆：光技術者のための応用光学』 新技術コミュニケーションズ, 2012年	

### 【雑誌記事】

資料名	東京大学OPAC	E-Journal
2. “The optical planetarium at Munich” <i>Nature</i> , 114(2878), p.937-938, 1924年		 オープンアクセス
3. Klüber, H “Das Zeiss planetarium” <i>Die Naturwissenschaften</i> , 15(11), p.249-256, 1927年		 学内者限定
4. Werner, H “Astronomische Mitteilungen” <i>Die Naturwissenschaften</i> , 23(1), p.23-24, 1935年		 学内者限定

## ★関連資料リスト★


### 【図書】

資料名	東京大学OPAC
<p><b>日本天文学会百年史編纂委員会編『日本の天文学の百年』</b> 恒星社厚生閣, 2008年</p> <p>1937年に、大阪市立電気科学館（現在の大阪市立科学館）で日本初のプラネタリウムが公開された。この図書にはプラネタリウム公開当時の建物外観および投影機の写真が掲載されている。</p>	
<p><b>恒星社厚生閣編集部編『全国プラネタリウムガイド』</b> 恒星社厚生閣, 2015年</p> <p>現役プラネタリウム職員によるガイドブック。全国256館（2015年当時）を網羅している。基本用語や歴史、構造解説なども掲載されている。</p>	

### 【雑誌記事】

資料名	東京大学OPAC	E-Journal
<p><b>井上毅「プラネタリウムの発明と日本での始まり」</b> 天文月報 = <i>The astronomical herald</i>, 116(4), p.154-163, 2023年4月</p>		 オープンアクセス
<p><b>嘉数次人「日本最初のプラネタリウムとその活動」</b> 天文月報 = <i>The astronomical herald</i>, 116(4), p.164-170, 2023年4月</p>		 オープンアクセス
<p><b>朝比奈貞一「プラネタリウムの歴史-宇宙の神秘を演ずる『星の劇場』」</b> 天文と気象, 26(6), p.6-12, 1960年6月</p> <p>大阪市立電気科学館のプラネタリウム公開当時のドーム外観の写真が掲載されている。屋根には世界地図が描かれていた。</p>		[なし]

### 【ウェブサイト】

資料名	ウェブサイト
<p><b>ZEISS Planetariums</b> <a href="https://www.zeiss.com/planetariums/int/home.html">https://www.zeiss.com/planetariums/int/home.html</a></p> <p>ツァイス社のウェブサイト。初期のプラネタリウムだけでなく、世界各地に存在する同社のプラネタリウムについて、写真と共に、様々な情報が掲載されている。</p>	
<p><b>日本プラネタリウム協議会（JPA）プラネタリウム100周年記念事業 ～地上の星 ドイツに生まれて1世紀～</b> <a href="https://100.planetarium.jp/">https://100.planetarium.jp/</a></p> <p>プラネタリウム誕生100年を記念した日本各地のイベントを紹介した特設サイト。</p>	